



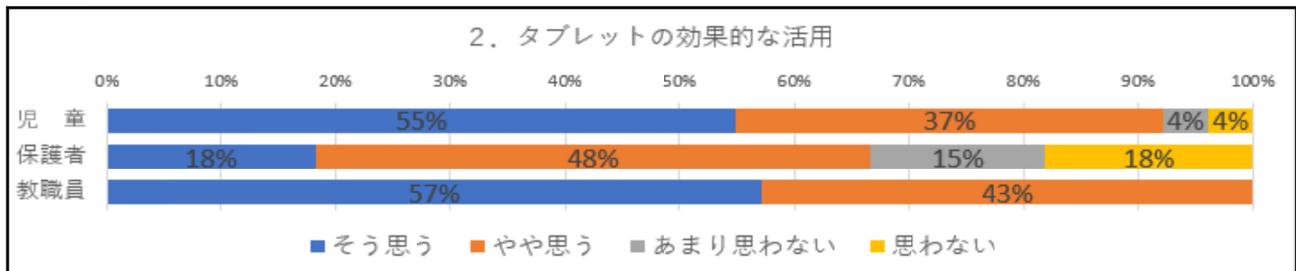
学校評価アンケートから① GIGAの道を往く

今年度もwebオンラインを活用した学校評価アンケートへのご回答に協力いただき誠にありがとうございます。本年度の振り返りと次年度への活用にと、集計・分析・協議に取り組んでいます。今年度のアンケートは、検証課題に対して、児童・保護者・教職員それぞれの視点から取組を評価する『三者評価』で実施しました。

特に保護者の皆様と共有して参りたい内容について紹介させていただきます。

【質問2】 タブレットの効果的な活用について

- 児童：タブレットなどICT機器を使うと、授業がわかりやすくなる。
- 保護者：子どもは、持ち帰ったタブレットを家庭学習（宿題、自主勉強）に活用している。
- 教職員：GIGAスクール構想の推進は、指導環境の向上につながっている。



児童や教職員は、授業でのタブレット活用の有効性を肯定的に捉えています。保護者は33%が否定的です。「そう思う」も18%であることから、家庭学習ではまだまだ活用できていないようです。携帯型ゲームは、あんなに自由自在に使えるのに…です。

1年；こくご「これはなんでしょう」の授業での活用を紹介します。問題を作り、出し合って楽しむことを通して、言葉への興味や話す・聞く力を育む学習です。具体的には、3つの言葉から答えを想像する「スリー ヒント クイズ」です。

タブレットをノート(メモ)代わりにし、発題児はヒントをタブレットからモニターへ映します。回答児は、ヒント毎にタブレットにペンでひらめいた答えを書きます。それは教師のタブレットに示されるので、発題児は正答があるかないかを確認しながらクイズを進めます(→写真)。タブレット無しでも行えますが、6名の回答が一目瞭然なので楽しさは高まり、それが話す・聞く力の発揮にもつながります。



もちろん正しい言葉遣いや、文字を丁寧に書く、意見表明や周りの意見に耳を傾けるなど、これまで同様の基礎・基本の獲得と並行し、ICTを活用することで、学力を活用する力の一層の向上につながると期待しています。「使う力」育成に取り組めます。